

令和5年度第2回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会議事録

日 時 令和5年12月5日(火) 午前10時～12時
場 所 いずみホール 会議室

整備委員会委員(8名)

委員長	坂 誥 秀 一
副委員長	福 嶋 司
委員	久保田 尚
委員	酒 井 清 治
委員	佐 藤 信
委員	鈴 木 誠
委員	藤 井 恵 介
委員	小 柳 博 行

オブザーバー(2名)

東京都教育庁地域教育支援部管理課	課長代理	鈴 木 徳 子
〃	〃	主事 野 口 舞

出席職員(8名)

教育長	古 屋 真 宏
教育部長	可 児 泰 則
ふるさと文化財課 課長	新 出 尚 三
〃 史跡係長	寺 前 めぐみ
〃 史跡係	宮 崎 俊 男
〃 史跡係	野 田 悠 真
緑と公園課 公園緑地係長	井 上 健 次
〃 公園緑地係	高 橋 彩
文化財保存計画協会(コンサル)	矢 作 岳
〃	〃 古 河 啓 子

<会議次第>

1. 教育長挨拶
2. 開会
3. 報告事項
4. 審議事項
5. その他
6. 視察

(1) 令和5年度史跡保存整備工事について

資料1

(1) 大型地形模型について

資料2

7. 閉会

1. 教育長挨拶

新出課長 おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は、事務局を務めさせていただきます、ふるさと文化財課長、新出でございます。よろしくお願いいたします。

では、開会に先立ちまして、国分寺市教育委員会古屋教育長よりご挨拶を申し上げます。

古屋教育長 改めまして、おはようございます。本日も大変お忙しい中、史跡保存整備委員会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。本年度第2回目ということになります。本年度の工事につきましては、9月から大規模な工事を進めているところでございます。地元の方々からも多くのお声を寄せていただいております、それだけ周辺住民の方の関心が高いのかなと考えているところでございます。

そして、来年度はいよいよ武蔵国分寺跡の入り口であります参道や南門、また大型地形模型などを施工する予定になっておりまして、補助金や市の予算もこれから検討していくわけですので、その状況により変更するかもしれませんが、さらに大きな工事になっていく予定です。この工事が終わりますと、武蔵国分寺の顔となるメインエントランスの部分が整いますので、ぜひ皆様方のお力添えを頂けたらと考えているところでございます。

本日は審議事項といたしまして、大型地形模型についてということで御審議を賜れたら幸いです。また、併せて、工事の状況をご視察いただくということで、寒い中ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

また、昨年度文化財に指定いたしました玉川上水の分水である中藤新田分水跡（胎内堀）の展示が今、資料館のほうで始まっておりますので、もしお時間がございましたらこちらのほうも御覧いただけたらと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2. 開会

新出課長 本日の委員会ですが、委員定数10名のところ8人の委員の皆様に御出席を頂いております。したがって、委員会条例第6条に基づきまして本日の会議は成立していることをご報告申し上げます。

また本日は、オブザーバーとして東京都教育庁地域教育支援部管理課から鈴木課長代理と野口主事に御臨席いただいております。よろしくお願いいたします。

また、市の工事担当課として、緑と公園課公園緑地係から井上係長と高橋が出席しております。

続きまして、本日の流れを簡単に説明させていただきます。本日、審議終了後、

皆様と一緒に史跡地の現地視察を行いたいと思っております。また、お時間があれば、先ほど教育長が申し上げました、武蔵国分寺跡資料館の企画展も御覧いただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。整備工事及び武蔵国分寺跡資料館への移動、その他駅までの足につきましては、事務局にて車を用意しておりますので送迎をいたします。よろしく願いいたします。

では、坂誥先生、ここからの進行をよろしく願いいたします。

坂誥委員長 おはようございます。お忙しいところ御参集ありがとうございます。御承知のように国分寺は国史跡の指定になりまして100年という節目を迎えました。立派な会もやっていただきました。あわせまして、来年は市制施行60周年というちょうど切れ目のいいところがございますので、明年はぜひ史跡整備のほうにも力を入れると、市長さんのお話だと、101年目以降の課題だそうでございますので、期待しております。よろしく願いいたします。

それでは、本年度第2回目の保存整備委員会を開催させていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。既にお手元に議事録が置いてありますが、前回6月22日に開催いたしました議事録でございます。この議事録につきましては、慣例により御覧いただきまして問題点などありましたら事務局へ質問していただければ訂正などをしたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。そのようなことでよろしゅうございますか。それでは、議事録の件についてはそのようをお願いいたします。

3. 報告事項

(1) 令和5年度史跡保存整備工事について

坂誥委員長 本日の議題は、報告事項がまず1点ございます。それについて、事務局、説明をお願いいたします。

寺前係長 ふるさと文化財課史跡係の寺前です。よろしく願いいたします。それでは、資料1のほうを御覧いただければと思います。「令和5年度史跡武蔵国分寺跡保存整備工事について」という資料です。今年度、南門地区の第2工区のその2ということで、2年目の工事を行っております。1年目としましては、昨年の令和4年度に樹木の伐採をしまして、参道から金堂に至るところの景観を整えました。今年度は南門地区の西側、第四中学校側の工事をしてございます。来年度は南門地区の参道部分、東側の部分を中心に施行する予定になっております。

契約期間は、令和5年7月25日から2月29日ということで施工を予定しております。施工業者は西武緑化管理株式会社に施工していただいております。

作業時間につきましては、平日の月曜から金曜日、8時35分から17時となっておりますけれども、これは周辺のスクールゾーンと通学時間のほうを考慮いたしまして、四中と四小にも御協力を求めながら設定した時間でございます。土曜、日

曜、祝日は休工としておりまして、大型車両が入る際には誘導員をつけるなど安全に配慮して施工を行っているところでございます。工事の内容、工程につきましては、工事担当課である緑と公園課からご説明をいたします。

高橋係員

緑と公園課の高橋です。場所につきましては、先ほど申しました資料1の後ろの図を見ていただければと思いますが、金堂、講堂の南側、南門の西側に相当する、赤く示した箇所となっております。面積は約6,700平米ほどの広範囲となっております。5番の工程ですが、今回契約の関係で9月から準備工を行い10月から着手をしております。金堂、講堂地区で行った設備工事を今回行ってございまして、電気設備、湧水、雨水の排水などが進められております。また、この後現地でも説明をさせていただきたいと思っております。また、北側の境界とのフェンス、あとは南側の擁壁、南門のエントランスの腰掛け部分を現在行っている次第です。

遺構の表示につきましては、伽藍地区の区画溝の形状が現在見られるような状態になっております。

年明けは四阿、飛び石、植栽、街灯の整備を行っていく予定です。

「6. その他」につきましては、工事完了後は芝を全面に敷きますので、芝の養生のため8月まで封鎖をいたしまして、9月に開放予定となっております。この時期は、東側部分で来年度の工事を進めていくような形となると思っております。

坂詰委員長

ご苦労さまでした。ただいま報告がございました件については、後ほど現地を視察いたしますので、そのとき改めて具体的に説明をお願いしたいと思っております。以上、報告事項を取りあえずここで打ち切らせていただきたいと思います。

4. 審議事項

(1) 大型地形模型について

坂詰委員長

それでは、次に移ります。審議事項でございます。審議事項は、ここにございますように「大型地形模型について」と書いてございます。今後の整備をやっていく上で1つの目玉になるような、また、市民にとって非常に重要な展示の説明になると思っておりますので、この件について審議事項にさせていただきたいと思っております。それでは説明をお願いいたします。

寺前係長

まず、最初に資料1の裏面を御覧ください。カラー刷りの地図が入っているものです。左下のところに写真が入っております。参道の入り口に当たるところの西側の脇に設置をする予定になっております。

続きまして、資料2。横の資料を御覧ください。こちらは設計図上に落とした位置になります。南北に走っているのが参道部分、参道の西側に立体の大型地形模型を配置する予定になっております。おおよその大きさもスケールに合わせておりますので、大体このような位置、このような大きさで入ってきます。

資料2の裏面を御覧ください。まず今回の設置する位置の特徴としては、この位

置に立ちますと、武蔵国分寺の僧寺ですね。参道の南側にありますので、僧寺の部分を正面から見える位置に設置することになります。

また、2番目としましては、北側を見ましたときに国分寺崖線の緑地帯が左右に、東西に広がる位置に当たります。また、ここから見渡しますと、西側には西国分寺駅、東側には国分寺駅の駅ビルが見える位置に当たります。

この立地で総合案内をする際の方向性として、6点ほど挙げてございます。まず①、一番大事なところなのですけれども、武蔵国分寺跡の広がり範囲が分かるような案内とするということです。

それから②としまして、武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして野川があり、西側に東山道があるという立地を選地しているのですけれども、そういった選地のイメージを持つことができるような案内にしたいと思っております。

それと③としましては、現在のまちの中で、自分がどの位置にいて、武蔵国分寺の中で自分がどの位置に立っており、国分寺と今のまちを対比できるような位置関係を捉えることができるものにしたいと思っております。

それから、立体の地形模型ということを考えておりますので、そこに触れることができるようなものと考えております。

⑤としまして、視覚的に理解がしやすく、国分寺崖線という自然の前に位置していますので、自然に調和した色合いということを考えております。

それから、恐らく往来も増えてくると思いますし、南側からも北側からも人がお越しになるということ考えたときに、安全に配慮した構造をとっていきたいと思っております。

これまで、武蔵国分寺跡の全体が分かるような模型、地図などで設置したものは、この左の下にある武蔵国分寺跡北方地区の地形図というもの。これは、お鷹の道・真姿の池湧水群の北側です。その隣にある武蔵国分寺跡資料館の中にある模型ですね、屋内にある模型です。これが僧寺と尼寺の寺院位置をカバーする範囲ということを表示しております。

今回の大型地形模型の特徴、範囲としましては、武蔵国分寺跡の僧寺、尼寺、東山道武蔵路を中心としまして、北は中央線のところ、南は府中市の参道口のところまで、東西約1.9 km、南北1.6 km四方を対象として模型化を考えております。

先ほど御説明した立体の地形模型というところなのですけれども、模型の規模としましては、縦2 m、横幅2.4 mぐらい、高さ1 m程度のものと考えておまして、地形の特徴をつかみやすいように垂直方向につきましては2倍の高さで国分寺崖線の崖のところを表現しようかと考えております。

地形模型に載せる構成要素としましては、武蔵国分寺跡の寺院全体ですね。それと東山道武蔵路跡。それから、今、開園している武蔵国分寺跡資料館があるおたかの道湧水園。それと、旧地形である国分寺崖線と湧水地点の野川、あとは現在見え

るところでいうと西国分寺駅、国分寺駅。あと、西国分寺駅から武蔵国分寺跡の間に新庁舎の予定地も入れる予定にしております。

また、地形模型の周りに解説板を設置しようと考えておまして、このパネルのところでは国分寺崖線の成り立ち、また、旧石器時代・縄文時代の遺跡の広がりですとか、そこから東山道武蔵路跡の遺跡、武蔵国府・参道口との関係など、地形模型から読み解けることを中心にパネルには説明を入れたいと思っております。

大型地形模型のすぐ南側に1つ看板を立てる予定になっているのですが、ここは南から来たときの一番目玉となる大きな看板ということで、武蔵国分寺跡全体の御案内を入れる予定にしております。

地形模型の素材としては、今、陶器製を考えております。金属製のもの、アルミ製とかブロンズ製のものは避けまして、陶製、FRPなどのカラーでビジュアル的にご説明ができるものですとか、あと耐久性と費用を検討した結果、今のところ陶製がいいのではないかなと考えております。

あと、模型を設置する形態なのですが、右下と右2つの写真にあるように、少し斜めにして設置をしようかなと思っております。この特徴は、武蔵国分寺跡を正面から見るということが大きな特徴としてありますので、南に曲がっていただいて武蔵国分寺跡と地形の関係を適切に捉えるように、また、雨がたまらないように斜めにするによって、排水などを考えております。さらに、低かったり平らだったりすると子どもが乗って遊ぶということも考えられましたので、乗りやすい構造ということで斜めにし、安全面にも配慮したものを考えております。

写真ですけれども、一番右側2つ目のものが、松山市の史跡の葉佐池古墳になっていまして、大きさが横1.5mぐらいなのですね。一番右下のものが、秋田市の秋田城跡の地形模型なのですが、横幅でいうと約2.4mありまして、今回設置しようとしている地形模型はそれよりもさらに一回り大きくなるものになります。

資料の次のページをおめくりいただきまして、A案とB案と表状になっているものを御覧ください。今回の武蔵国分寺跡に入れる地形模型なのですが、模型の部分だけで縦が2m、横幅が2.4mほどございます。資料では平面のように見えているのですが、ここに大型の立体の地形模型を入れるとイメージしていただきまして、その範囲としましては中央線の辺りから府中市の参道口までの辺りということになります。

今回ご説明した概要を基に、今、A案とB案を提示しております。違いとしましては、純粹にパネルの位置、枚数になっております。B案ですと、全体的にスッキリした印象になっている半面、地形の凹凸のある部分が外側に出ているということで触りやすいというメリットはあるのですが、凹凸の陶器製の部分がむき出しになっているために何かあったときに破損する可能性、耐久性などを考えまして、A案のほうが耐久性としては高いのではないかと考えております。この辺りも

含めて御審議を頂けたらと思います。よろしくお願ひいたします。

坂詰委員長 今、説明が終わりましたが、事務局のほうとしてはA案、B案を出しておりますが、基本的にはA案が諸般の事情から見ていいのではないかという御意見であります。この点について、進めるに当たりまして先生方の御意見をまず伺いたいということでございますが、いかがでございましょうか。何か最初にご質問があれば、ひとつお願いしたいと思います。

酒井委員 A案とB案の周りの文字を入れる説明のところ、A案は上と左右あるわけですが、B案は下だけですが、同じ40cm幅で取ってあるということは、文字を書く面積が随分違いますが、これは何か文字のポイントとかそういう何かは考えられていらっしゃるのですか。

寺前係長 文字の大きさは、恐らくA案につきましてもB案につきましても、同じように見やすいものと考えておりますので、それによって差は考えておりません。ですので、大型地形模型を見たときに文字と写真が多いもので理解をしていくか、B案ですと情報量としては減りますので地形模型を中心に見ていただくかというようなイメージになっております。

酒井委員 分かりました。

佐藤委員 この立体模型は大変結構で有難いなと思うのですが、ちょっと幾つかあるのですけれども、一つは、垂直は2倍ということなのですか、どの程度立体的になるのでしょうか。それともう一つは、これは何分の1ぐらいになるかがありますね。それと、私は資料館にある国分寺の模型が大好きなのですが、国分寺の七重塔が60mもあるということはこの模型でも理解していただけるかと思うのだけれども、建物を復元するかどうかということをちょっとお尋ねしたいです。

寺前係長 まず模型なのですけれども、約700分の1ということで数字を出しております。

佐藤委員 700ですか。本当はもっと大きいといいですよ。古代の国分寺の一応推定される金堂だとか講堂だとか中門だとか、あるいは塔だとか、建物が立っているとすぐ分かりやすいと思うのですが。

寺前係長 そうですね。建物を復元することについても検討したのですけれども、史跡全体の使い方を見たときに、ボールで遊んでおられるお子さんがいたりしますので、どなたにも楽しく使っていただきたいというのがまず第一にありましたので、そういったところで耐久性を考えたときに、建物は平面表示で行うような形で、今は考えております。ただ、基壇の部分のどっぴりというかそういったものは表現をしていきたいなと思っております。先ほどのお話で、垂直方向に2倍にしたときの地面から国分寺崖線の立ち上がりは55mmぐらいになります。

佐藤委員 崖線の高さが、5cm5mmですか。実感としては、結構平らだなということになってしまうと思うのですよね。何かそこら辺が上手に表現できるといいのですが。露天の下で立体的な模型を出しているのは多賀城跡だとか秋田城跡でもやっ

す。建物も復元したものを。

それともう1点だけいいでしょうか。私もこのAのほうがいいと思うのですが、この模型を見て実際に史跡の南門から中門の辺りや国分寺崖線を見ていただくためには、模型が下にあるのではなくて上にあったほうがいいと思います。これが四角い中の下に張りついているではないですか。これが上にあったほうが。説明を下に回して、模型を見てそのまま上で現地が見られるようにしたほうがいいと思います。

寺前係長 高さの5 cm 5 mmにつきましては、高さ4倍というところまで検討はしたのですが、4倍のほうが国分寺崖線の高低差はすごく理解しやすかったのですが、私自身いろいろなところを見てきた中で高さを4倍にしたものに出会ったことがなくて、4倍となったときに感覚的に御理解いただけるのかなというところで、2倍に落ち着いたという経緯がございます。

佐藤委員 真ん中辺りとか、塔だけでも高さがこれぐらいでしたというのをちょっと何か建てられないかなという気もいたします。手近なところではなくて遠いところ。真ん中ですよ。

寺前係長 そうですね。建物の件ですよ。

藤井委員 すみません、その件だけちょっとよろしいですか。地形を2倍とか3倍とか4倍とかというのは分かりやすくしてもいいのですけれども、建物をその同じ倍数でやるととんでもないことが起きるので、極力原寸で、高さ方向を掛け算しないでほしいのです。

というのは、平城宮跡の復元模型がありましたよね、奈良市役所にある大きなあれです。あれは1.2倍ぐらいで高さ方向を変えているのです。そうすると、建物が変に高いのです。細くなってしまっていて、塔なんかはあり得ないプロポーションになるので、建物に関して高さ方向は絶対にしないでいただきたいのです。というのは、拡大写真などを撮ると異様に高い建物になってしまう。それで、すごく誤解を与えてしまうのです。ですから、建物は原寸のプロポーションでやっていただきたいです。そうすると微妙ですよ。地形は高いのに建物はそのとおりというとなんか変なものになるので、多分共存しないので、ここに建物は建てないほうがいいと思うのです。

寺前係長 ありがとうございます。

藤井委員 それから、あと2点くらいあるのですけれども、こういう模型が何年もつのかということです。陶器にすることで長くもつという方法で僕はいいと思うのですけれども、傷んだらすぐ更新ができるように設計していただきたいと思います。だから、例えば20年はもつはずだといって、20年更新しなくていいのかといったら、10年くらいで傷んできたらやはりこういう表側がとても重要なプレゼンテーションですから、やはりそれはそれで予算化して上手に維持していただきたい。

それともう一つは、史跡全体をどこからか写真を撮るということです。これから必ず紹介写真を撮るわけですから、そのときにこれが目立ち過ぎないように、角度の問題とか色の問題とか、写したときにバーンとこれが見えるような感じにならないような場所と撮影ポイントを、ここだと大体想定しながら上手に置いていただきたいのです。やはりこの面の角度とかね。そうしないと、いつでもこの説明板が目立つ写真が出てくるみたいなことになるので、それだけは気をつけていただきたいです。

寺前係長
藤井委員

はい。

色の場合もそうですよね。それだけが目立ってしまうと、とても惨めな写真ばかり出てくるということになってしまうので。

佐藤委員

もう1点よろしいでしょうか。先ほどもう1点言いそびれたのは、この図面の配置でいうと、南から入ったところが「南エントランス広場」と書いてありますが、真ん中に参道が整備されて、その右手に史跡の名称板があって、左手に説明板があってその奥にこの模型が位置するということなのですが、私は、例えばボランティアのガイドさんが説明するとしたら、やはりここからアクセスすることが一番多いと思うのです。前に説明板があって説明した後、後ろのあまり広場がないところでこの模型を見るというのは、ちょっと大丈夫かなと。だから全体として、ガイドダンス広場というのはやはり1学級40人とか50人とか来られたときに、この模型を見ながら説明したいので、模型の前はそういう説明ができる広場があったほうが良いと私は思います。説明板を上手に配置すれば説明板も見てもらいながらこの模型を見てもらえるみたいな形で、ガイドダンス広場としての全体の使い方を考えて、ただ単に置くのではなくて、勝手に見てくださいではなくて、例えば1学級案内してきたときのことを考えて、周りや全体を検討していただけると有難いなと思いました。

私は、一番最初は100分の1の模型をこの広いところに置いたらいいと思っていたのです。100分の1だと60mの今、資料館にあるような七重塔をここに置いたらいいなと思っていたのですけれども、700分の1になってしまった。武蔵国分寺の広さというのが全国でもダントツの立派なものなので、それを理解してもらえるといいなと思います。この模型がそういうふうになると有難いと思います。

鈴木委員

方向性というところに6点整理されていますよね。例えば今、佐藤先生がおっしゃったようなことがここに入っていないことが僕は不思議ではないです。

それと、この1から6のうち例えば武蔵国分寺の広がり分かるだとか、大体全てについて委員全員があるべき姿だと思うのですけれども、補足説明してほしいのは、4番の「立体地形に触れることができる」、これは全員に推奨してやるべきことなのかどうかということをお補足説明してもらえますか。

それから、やはりこの地形模型で説明しようとするものの本来の目的は、ガイド

したり何かしてこの武蔵国分寺の全体像をきちんと理解してもらうためにあるのだから、方向性に入っていないというのは少しおかしいのではないかと思います。という2点についてです。この立体模型を何のために使うのか、みんなに触れさせるために使うのですかというところです。

佐藤委員　それで、また申し上げてしまうと、国分寺跡というのは聖武天皇の国分寺建立の詔で置かれるわけですけども、あの詔の中で、国府に近くて人がたくさん住んでいるところではなくて、そこからちょっと離れたところで、清らかで聖なる場所に置きなさいということで古代にここが選地されているわけです。しかも、人の住んでいるところからあまりに遠すぎても駄目だから、遠くも近くもないところでベストな美しい自然の景観のいい、一番優れたところに置きなさいということなので、それを理解してもらえるといいと思うのです。

だから、今、鈴木先生がおっしゃったように、それを理解してもらうためにここに立体模型を置くのだということだと思ふのです。今の国分寺の史跡の説明ですが、今も美しい場所だと思いますけれども、そういう景観のいい場所に置かれているのだということを来た人に理解してもらえるといいなと思います。

寺前係長　いろいろご指摘ありがとうございます。ご指摘いただいたとおり、ここに置くに当たって平面でなくて立体にしたというのは、この地形のイメージを持っていたきやすいよう、ここに武蔵国分寺が選地されたということ視覚的に理解しやすいように立体の地形模型にしたという経緯がございます。立体ですので、子どもたちに触ってもらいながら、楽しんでいただきながら御案内できたらいいなというところを当初目指しておりました。

立体の地形模型も様々なものがありまして、例えば等高線上に重ねていくような模型もあるのですが、やはりそこは崖の状況ですとか、窪地の状況、そこに川が流れているという低地の状況なんかも理解していただきやすいように、そういったものが表現できるようなものということで陶製を選んだということもございます。

小柳委員　子どもが触れることができるとは言いますが、これだけ大きな板面だとはっきり言って子どもは乗ってしまうのではないかと思います。乗らないと触れませんよ、子どもたち。だから、何歳の子どもの対象にするのか分からないのですが、子どもが触るとするのは前提にしないで、史跡を見に来たり、散歩に来た人が分かるようにボランティアガイドさんが棒を持って場所を教えられるようなものがないと思うのです。A案の板面を上を上げてしまうというよりは、最初に言われた先生の御意見のように下側に左右と手前に説明板があるのがよいと思います。奥に説明板があると2mも先になるので字が見えないですね。ぐるっと回って逆から文字を見ることになると、ちょっと大人でも逆から見るのは困難ですから、A案はそのままではあまりよくないと思います。

それで、今、建物の模型を作るのかなと思ったのですけれども、作ると多分子どもが壊してしまうと思うのですよね。あそこは人目があるような無いような場所なので、壊される可能性もあるということで建てたのを作ってもいいし基壇だけでもいいです。本当は建てたほうが見栄えはいいのですよね。ただ、それはどちらでも構いません。

ちょっと一つほかのことなのですけど。今回、第二工区その2の工事も少し聞いていたのですけれども、何を植えるかとかそういう説明は無かったと思うのです。もう工事は決まっていると思うので、今度は第二工区その3のところですね。今言った南エントランス広場のところについて、今、意見が出た大型看板の前の広場はちょっと大勢の人数が入れるような空間が欲しいということと、この道路との境をどうするつもりなのか。南側の道路とこの広場との間をどうするのか。先にそれを教えてほしいのですけれども、これは植栽をやっていただけますよね。

寺前係長 はい。

小柳委員 例えば子どもがすぐ道路に飛び出してしまうとかそういう危険もあるので、植栽の計画はありますよね。それを見たのですけれどもよく分からなかったです。この道路の面に植栽はしないのですか。

寺前係長 この道路の面は、植栽はいたしません。道路からそのまま入っていけるようにエントランスの部分を下げて通行しやすくしています。

小柳委員 すぐ道路なので、小学生とかがちっと怖いような気がしますがね。前のほうが確かによく見えるわけなのですが。実は、この道路の南側は私の畑なので、少し見栄えが悪いものですから、生け垣でもあれば少しは見栄えがよくなるかなと思って提案したわけなのですが。この辺に関しては皆さんの意見で、植栽がいいか、このような車止めだけでオープンな形がいいか検討していただければと思います。

坂詰委員長 久保田先生、いかがですか。

久保田委員 今のお話で、「南エントランス広場」というここにあるのは、今、配っていただいた絵でいうとどこの部分なのでしょう。

寺前係長 ガイドブックの上の部分に参道がありまして、ここに地形模型があるのですけれども、ここの広場のことを「南エントランス広場」と呼んでいます。

久保田委員 そういうことですか。分かりました。少し質問があるのですけれども。先程から話題になっている遺構解説板というのがあります。今この場所は適切ではないのではないかというお話がありましたけれども、この情報内容が模型の下と両側につけられる説明とこの遺構解説板に載る情報とどういう関係になるのですか。

寺前係長 地形模型の周りに配置する説明につきましては、武蔵国分寺跡全体というよりは地形から分かることを書いていくのと、国分寺崖線のことですとか湧水のことですとか、今のところでは、南側の看板は武蔵国分寺の全体の説明を入れようかなと思っております。

久保田委員 なるほど。となると、やはり先に遺構解説板を見て全体を把握した人たちが地形模型のところに行ってさらに深められるということですね。

寺前係長 そうですね。地形模型のところを見ると、崖線とか湧水とかもあれば、そこからは見えない、例えば尼寺とか東山道武蔵路の説明ですとか、おたかの道湧水園があるというところの御案内ですとか、そういったところが地形模型と一緒に見られるような建て付けで今検討しております。

久保田委員 そうすると、まさに先程おっしゃった位置関係の問題と、それから動線上何を先に見て、どの知識を得て、次に地形模型に行って何を見るという、動線との関係でも配置を考えればいいということなのですね。

寺前係長 今いただいた御指摘で整理をしていきたいと思います。

福嶋委員 先程、小柳委員から御質問がありましたように、やはりこの植栽というのは奈良の時代のここに置かれていた、あったであろうという植物がやはり基本ではなかろうかなと思います。残念ながら、金堂の東側に江戸時代に入ってきたようなヒイラギが植えられたりしていますので、そういうことのないように、やはり天平の時代の植物、しかも、恐らく庭を作ったり何とかというのも限られた地域だったでしょうから、そういうことを考えていくと、やはりこの武蔵野に合った自然の植物を基本に構成するのがいいのではないかと考えています。

坂詰委員長 いろいろな先生方から御意見を伺ったのですが、1つは700分の1にするという諸般の事情からスケールが決まったと思うのですが、その700分の1の中にいろいろな情報を落とし込む。特に自然地形を理解していただく立地問題ですね。それを非常に重要な課題として最初にセットしております。これは昔から佐藤先生がおっしゃっているように、見に来る人たちに嘘をついてはいけないと、歴史情報は正確にしろということをおっしゃっているのです。そういうのを頭に入れながら立地問題をもろろん決めていたと思うのですね。

もう一つは今日あまり説明がなかったのですが、大型の説明板と今回作る模型との相関関係、これをちょっと具体的にもう少し詰めておいていただくということ。それから、それぞれの位置ですね。例えば大きな説明板を今度作る地形模型と平行に置くのか、角度をどういうふうに置くのか、そういう問題。それから設置位置をどこにするのか。それをもう少し検討しておいていただければ有難いと思います。

それに関連しまして、説明板に盛り込む情報ですね。できれば、ある程度までの情報を原案ができましたら先生方に見ていただいて、こういう点が足りないとか、あるいは行政的にこれを入れるべきだというような御注意があればそれも考慮していただくということで、事務局で作ったものをイコール説明板に盛り込むということをしてしないで、ひとつ皆さんの御意見を伺うような機会を作っていただきたいと思っています。

そういう問題を含めまして、今回の位置問題というのが決まると思うのですが、

この位置の問題、今、久保田先生がおっしゃいましたが、要するに武蔵国分寺をガイドしていくための動線をどういうふうに事務局でセットするのか。それを一つ、もう1回検討して具体的な案を出していただきたいと思うのですね。

それから植生については、ただいま福嶋先生からお話がありました。国分寺跡全体に対して植生問題というのが大きな問題になっているわけです。昨年のシンポジウムや何かでも論議されましたように、国分寺というものの存在を意識してもらうために奈良時代を中心とした植生をやっていただくというのがいいのではないかと、戦後入ってきた植木が大分入ってしまっているのだというようなこと。それからもう1点、福嶋先生が常におっしゃっていますが、植物というものは育ちますから、10年後20年後どういうふうな植生、大きくなっていくのかということ。植物の種類を踏まえた上で生育状態を考えて植えてもらうと。おそらく、こういう設計をお願いすると、コンサル会社は文化財中心になってしまいますから、木は、要するに何か植えろと言うから植えればいいのかというので植えていくわけですね。そうではなくて、何年後にはどうなるのかということですね。それから植物にはいろいろな種類があるようですが、例えば国分寺の境内にあります万葉植物園との関連もそこでうまく来ていただく方に理解をしていただけるようなこと、それもやはり重要ではないかと。そうしますと、せっかく国分寺のご住職が苦勞して作った万葉植物園を積極的に市のほうでも活用してもらうような、ガイド面を充実してもらうような要請もできると思うのですね。そのためには、史跡全体に奈良調の植生を考慮するのだというのを打ち出していただければ有難いと思っております。その点も一つ考慮していただければと思います。

福嶋先生は御専門ですので、今、文化財関係で設計するコンサル会社は、これは全国どこでもそうですね。緑があればいいと思ってすぐ植えていくのですね。そうではなくて、その遺跡の時代に沿った植生というものをやはり考えていかないと、将来として史跡公園の意味づけが薄れてきてしまう、変なものになってしまうと思いますので、先を見通した、少なくとも武蔵国分寺ではそのように先を見通した植生問題というのを考えていただく。また、その植生問題を考える上で、周辺の方々ですね。今、お話がありましたように、周辺の方々との対応を考慮いただきたいと思っておりますので、その点よろしくお願ひします。

それから、今回の立体模型だけで全てが説明できるわけではありません。ですから、今、資料館の中にある模型ですね。主要堂宇をやっている模型がありますが、あれも非常に面白くよくできていますが、また問題点もいろいろあるようです。いざ直すということになると思うのですが、それとの相関関係も、全体のパネルの説明と同時にそれらをリンクさせるような形で説明していただければと思いますので、その点も考慮していただけたらいかかと思ひます。

それから、もう一つは、先ほど先生方からお話しされていましたが、このパ

ネルは今はやりなのですね。全国でみんな樹脂のコーティングをするのですが、色が変わらないと言うけど変わっているのですね。それから、色が変わるかどうかっていうので、来た子どもや何かが石でこすっているのですね。そういうふうな破損していることもあるのです。本当に色が変わらないのか、変わるとやっているのです。そういう場合もありますから、そういうあらゆる可能性を考慮に入れておいていただきたいと思います。

それから、上に乗るということをおっしゃいましたが、そのとおりなのですよ。この近くですと、例えば武蔵の国府で作ったのです。そうするとあの上に乗るのですよね。乗らないようにと管理するのですけれども、なかなかうまくいかない。夕方、人がいなくなったらあの上で座ったりなんかして。そういう管理面ですね。特に行政としては管理面を考えていただくということも、一つ重要ではないかと思えます。

恐らくこれは将来の問題かと思うのですが、この立体模型のところへ照明をどうするのかという問題もあろうかと思うのです。このままでいいのかどうか。いわゆる、動線に街灯をつけますよね、それとの相関関係というのも一つ考慮していただければと。せっかく作ったものですから、これを皆さんに見ていただく、活用していただくという観点を考えていただければと思います。

最後に、佐藤先生がおっしゃった、やはりこの立体模型をこの上に何かつけますと、必ず子どもがいじったり壊したりしますし、700分の1というと本当に見えなくなってしまうからね。それよりも、やはり平面表示にさせていただいて、その立体については資料館の中の模型を参照していただくということで、模型それぞれの持つ価値といいたいでしょうか、意味づけといいたいでしょうか、それを一つ何かで謳っていただければありがたいと思います。要するに、立体的な看板それだけではないのだと。幾つかの説明を総合して国分寺を理解していただけるのだというような、要するにボランティアガイドに対するガイドブックも市のほうで一つ作っていただいてもいいのではないかという気がしますので、一つ総合的な形でこれを考えていただければと思います。

武蔵国分寺の場合は、恐らくこういうふうにしていきますと多くの人が見学に来られると思うのですね。一つの目玉にしたいと。東京都のほうでもかなりいろいろな問題を持っておられると思うのですよね。鈴木さんはいろいろと細かいことをお考えだと思えますが、行政面でも考えていると。ひとつ手本になるような模型を作っていただければありがたいなと思えます。

今日、先生方からいろいろお話いただきました内容を踏まえまして、事務局提案の原則はA案だけれども、その中で先生方がおっしゃったことを理解できるようにしていただくと。例えば国分寺崖線ですね。それをどう表現するか。色でやるのでしょうかけれども、色でどういうふうに表示するのかという問題その他もあると思

うので、よりこの意味づけを歴史的な情報から自然条件と立地条件というものを合わせて表現できるような原案を少し詰めていただければ有難いと思います。

そんなことで、一つA案を中心として、今、先生方の御意見を基にして事務局の方で詰めていただくということではいかがでしょうか。

佐藤委員 補足を少し、今、福嶋先生や坂誥先生からのお話があったので、私も地形模型では建物を建てる仕組みができないということであれば、資料館の中にあるような写真を近くで見られるとか、こういうのが建っていましたと近くで説明できるような形にしていただけると大変有難いと思いました。

それから福嶋先生がおっしゃった植生のことで、私はこの図面を今日初めて見て思ったのですけれども、私はこの会議でも前にも何度か申し上げたつもりなのですが、今、全国の史跡では、特に近代以前の史跡ではサクラの場合はソメイヨシノは植えないということに代々文化庁では指導してやってきたのです。というのは、ソメイヨシノというのは幕末に人為的に交配されたサクラでしかなくて、近代のものなのです。本居宣長が「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」といって、近代以前の人々は皆、日本人にとってのサクラというのは山桜なのです。だから、できるだけここにはソメイヨシノと書いてあるのですけれども山桜にさせていただくと、これは文化庁の補助事業でもあるので、文化庁とも相談なさるといろいろな意見が出るのでないかと思うので、今日は残念ながら文化庁の方、以前は主任調査官の渋谷さんが来ていただいていたけれども、京都に行ってしまったので来られないのかもしれないですが、よく十分に相談しながら進めていただきますよう、あるいはオンラインでこういうところに出てきてもらうとか、密接に相談しながら進めていただきたいと思います。

坂誥委員長 ありがとうございます。特に最後に指摘していただいた植生の問題ですね。たまたまと言っては申し訳ないのですけれども、福嶋先生がいらっしゃるわけですから、福嶋先生を大いに活用していただきたいです。いろいろ先生が御意見を出していらっしゃいますから、文化財関係のコンサルの方が作られたものを、それを一つ福嶋先生、文化財保護審議会委員の立場でもいろいろ御意見を頂いていますから御指導いただきたいと思います。少なくとも、武蔵国分寺ではそのような問題になっている点をクリアしたような形の史跡整備をしているのだということが強調できるような整備をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。そんなことで、後は事務局でさせていただくと。

小柳委員 すみません。植栽について今、意見が出ているのですけれども、今までサクラは、ソメイヨシノがありまして、市民はあれを楽しみにしていました。ここで大分伐採して、奈良時代や平安時代に無かったのは分かるのですが、どこか端のほうでもいいですから、ソメイヨシノの森を少しほしいなど。開花の時期にはお弁当を広げている方がいっぱいいましたので。国分寺にはサクラの行事が無いので。

佐藤委員 山桜でもできるのと、ソメイヨシノを、今あるのを切れとは私は思っていませんので。

福嶋委員 今この図面でいきますと、こちらにソメイヨシノが多いところがあるのですね。

小柳委員 そうですね。あります。

福嶋委員 ですから、そこまでは一応計画に入っていないようですから。

小柳委員 そちらのほうでも結構ですから、残るようにしていただけたらと。また、ちょっと植生の話になりますけど、奈良時代にある植生ということですから、管理上大きくなる木はきちんと市のほうで管理できるのかということ。ナラの木とかクヌギだとかケヤキ。恐らく、あと小さい木だと何があったか僕も分かりませんが、大木になる木を植えては困ると思うのですよね。管理ができなくなる。

福嶋委員 おっしゃるとおりですね。

小柳委員 管理しやすい奈良時代からの木にどんなものがあるのか私も見当つきませんが、管理しやすい木をよろしく願いいたします。

福嶋委員 私はずっと気になっているのが、金堂の前のところにプラタナスの大きいのがあるのですね。

小柳委員 あれに関してはいろいろ聞いています。

福嶋委員 それはそれで、あれだけ大きくなっているというのはやはり年を重ねているわけですから。

本数はあれほど要らないかなというのは。急に変えるということはなかなか難しいでしょうから、順番にやはり変えていってもいいのではないかと思います。

小柳委員 やはり、あそこに自分の畑があったという、その印として残しているのかなと思うのです。その先代の方とかが植えた木があることで自分の畑がそこにあったという。

福嶋委員 同じようなことが、その木の近くにマサキという木があるのですけれども、これも海岸の植物で本来なかった木なんですけど、それはそれでまた大きくなって立派になっていますね。そういうふうになっているのは時間をかけながら考えていくことはいいと思うのですが、ただ、私がやはり気になっていますのは、その近くにあるサツキの管理とか、これが植えるのは植えたのだけどその後の管理がよくないですね。ですから、そういうのを植えるのはいいのだけれども、後の管理をちゃんとする。また、土壌の条件をしっかりと管理してよく生育するようにしていく、そういう経費のことも考えておかないと、植えっぱなしという状況は、ちょっと私は気になっているところです。

ヒイラギナンテンは徳川時代に入ってきて徳川秀忠が大変好んだらしいのですけれども。でも、あれはやはり奈良調には合わないなと思います。だから、やはり最初に植えるときに意識をして、どういうものを植えるのだというのを熟考して対応していかないと、このところはこんなのがあったら美しいからいいのではないの

という話できてしまうと、そうなる。あそこはそうだったということは言えないかもしれませんが。その辺のところを、やはりどうあったらいいのだろうかという熟考した対応が必要ではないかなと思っています。

坂詰委員長 ありがとうございます。この問題については、いろいろ事務局のほうでも対応を十分されると思いますが、よろしく願いいたします。

鈴木委員 ちょっとこの地形模型のことと解説板と、それから模型がもう1つ資料館にあってその関係という話が出ているので、先程から佐藤先生の熱い話を聞いていて、このガイドブックに全然出てこないのですよね。10分の1の模型は出てくるけれども塔の大きさも出てこないし、初めのほうに地形の全体像の話が全然出てこないし、よく見たら表紙は100周年で工事中だからいいのかもしれないですけど、一般的な感覚からすると、この工事の写真なんかを載せられてもしょうがないなという感覚ですよね。むしろ、次のバージョンのときには地形模型を入れるとか、それから絶賛されている資料館の中の伽藍の模型がここにはないというも不思議なのです。

どんな話かという、資料館がガイダンス施設で、それから模型もそのツールで、その全体像をうまくリンクさせて一般の人たちがきちんと理解できるようにしていくと。その一環として植生の話も実はあるのです。皆さんが理解すればみんなが納得してそれにしましょうということになるわけです。

ですから、そういうことを考えていかなければいけないので。この工事写真から今やっているということは分かるのですよ。だけど、本質をとらえたことを全体的にやっっていかなければいけないと思うので、ぜひそこはよろしく願いします。

坂詰委員長 事務局に代わって私が言うのもおかしいですけども、このガイドブックはちょくちょく出しているのです。恐らく今度の全体整備が終わった段階で新しいのができると思うのですね。そうしますと、今度の立体模型とか、それから大きな看板を入れる。それから資料館に中にある模型の問題も、その相関関係を説明するという問題が出てくるのではないかと思うのです。取りあえずこれが必要だったので作られたと。書いてありますようにこれは5冊目ですから。恐らく6冊目にはそういう内容を踏まえた、表紙なんかも工事中の写真ではない完成された形が載るのではないかと思いますので、一つ事務局よろしく願いします。この次の6を期待しております。

鈴木課長代理 いろいろ先生方、御意見ありがとうございました。ずっと話題になっている模型の話なのですが、地形模型は地形模型で史跡の理解のために必要なものですので進めていただいて。ただ、私も本当は建築物を表示できるといいなと思っていたのですが、現地というのはなかなか難しいので、今、いろいろな技術がありますので、ARとかでも構わないのですけれども、資料館にあるあちらの建築物の模型を現地でスマホをかざすと重ねて見られるとか、そういうことでしたらあまり労力が要らずできると思うので、そういったことも合わせ技で考えられたらどうかと。

そうすると、資料館のほうへの誘導もよりしやすくなると思いますので、ぜひそれもお考えいただければと思います。

あと、先ほどから植栽のお話がありますけれども、やはり史跡全体の景観をどうするかということがありますので、まず史跡の景観として必要な植栽。長く人の記憶に残る植栽であれば、今後はいろいろ古代のものに更新していくということもあろうかと思うのです。ただ、この図面にある樹木については、今、既存のものを表示しているということで、新たに植えるということではないということかと思いません。

あと、植栽で言えば、管理上必要な植栽というのもあって、例えば今、隣地が民家だと思うのですが、それを遮蔽するためにどうしても必要になる植栽があって、それを管理がしやすいとか、きちんと史跡の景観として必要な植栽と、管理上のどうしても今、設置しなければいけない植栽というのは、理論上きちんと切り分けていただいて整理して、管理をしていただくのがよろしいのではないかと思いますので、そこも御検討いただければと思います。

坂詰委員長 管理・活用の件はそれに含まれると思いますので、その件も事務局で一つ十分検討していただけますか。それでは先生方のご意見を頂いた上で何らかの形で事務局で修正すべきところは修正するというので、基本的にA案を基に進めていただきたい。その都度分からないところがあったら、先生方の御意見を伺う機会を作ってください。よろしく願いいたします。それでは、課長、お願いいたします。

そのほかよろしゅうございましょうか。

野口主事 一つ補足でよろしいですか。今、A案で立体模型を進めていただくということでお話があったかと思うのですが、大体まず補助金でなさると思うのですね。やはり減価償却をしないと、もし次のものを更新したいときにある程度年数がたって規定の減価償却の期間を超えないと次に解消できないよということが一つ。

あと、これは経験値なのですけれども、ついこの間、金属板硬化樹脂コーティングだと思われる看板を更新したのですが、やはり20年くらいでもあせて見られないという状況になります。陶板のほうは、いたずらももしかしたらあるのかもしれないのですけれども、ここはどうしても道の近くにあるので、小石が飛んできて割れてしまうということもないわけではない。逆にこれは全部で30ピースになるのでしょうかね。ピースに分かれているので割れたものだけ交換できるという非常に大きいメリットがあって、やはり全体を変えるとすごく金額もかかるのですけど、1個ずつだとそれなりにその分散されるかなというのもあるので、陶板というのはとてもいいと思います。

時間とお金と今後作った後のメンテナンスというのもどうしてもあるので、そこも含めてご検討いただけるといいかと思えます。よろしく願いいたします。

坂詰委員長 ありがとうございます。ひとつ行政的にこのようなランニングコストを考えてい

ただきたいということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、課長、よろしくお願ひいたします。

新出課長　　いろいろ貴重な御意見ありがとうございました。A案を基に進めさせていただきますが、頂いた御意見につきましては十分検討させていただきますと思ひます。

4. 審議事項

新出課長　　次回の本委員会のスケジュールでございますけれども、これから整備の状況を見ていただきますが、この工事が2月いっぱいをめどに終わる予定になっておりますので、できれば終わった、完成した状態のものをまた見ていただきたいと考えてございますので、次回は2月末から3月にかけてもう1回できればと考えてございます。よろしくお願ひします。

6. 現地視察

7. 閉会

— 了 —